

浦向道の巡視整備（令和5年度春季巡視第一回）

◇実施日 2月12日（日） 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、湯川一郎、大江加予子、

畑林清子、生熊千満子、西克、山川自知、高階鈴子・美

根子、梶野照雄、志岐敬、山口康宏、瀧本昭太郎、佐藤

優美子、安田知美 17名

春季全ルートの巡視が始まって以来、どうしてかは判らないが浦向道がトップバッターとなっている。いよいよ令和5年の本格スタートである。

車の調達や配車に苦勞し、なんとかクリアした。

森林組合倉庫横の下山口に車3台を置いて、沖崎、西、大江車の3台で補給路登山口に向かう。途中心配していた積雪や凍結は皆無、スムーズな走行で登山口に着く。今日は全員で浦向まで歩くのでモノレールは使用できない。久々にザックを背に行仙宿まで登る。

七曲りの登りの手前で、でウエストポーチを忘れてきたことに気付

き、登山口まで取りに戻った。20分ほどのロスだ。

最近年のせいかわれ物が多くなったようなので注意する必要がある。ウエストポーチを持って登りだったが、七曲りの登りを三段ほど登った所で小さなシヨルダーバッグが落ちていたのを発見。児嶋

さんの携帯電話入れだということがすぐに判った。大声で先行者に知らせるが聞こえていないようだ。第2ベンチで気付いた児嶋さん

が降りてきて「探しに来た」と言う。ここにも私と同じような不注意者がいた。



役場駐車場

当日午前9時に役場駐車場に17名が集合、大人数で有難い反面



登山口で



部分的に残雪



石段の除雪



小屋内を掃除



お堂で勤行

湯川君はお母さんの介護の都合でモノレール終点から先行して浦向道を下って行った。

二人が最後尾で行仙宿に到着する。志岐さんが小屋西側階段に残った雪を片付けてくれていた。

12時出発としていたので小屋での作業は無し、としていたが昼食を挟んで小屋内の清掃やトイレの整備などを全員で行った。

今回の昼食時も児嶋さんのコーヒーや女性陣からたくさんのお菓子が提供された。いつもいつもありがとうございます。

今回が初参加の安田さんは行仙宿小屋の立派さに驚いておられた。



の一言だ。

モノレール終点から浦向道を10分弱、直径40cm位のブナの木が道を塞いでいる。何とか跨いで通行できるが、足の短い人にはかなりの障害だ。梶野君が担いできた電動のチェーンソーでは歯が立たないので後日処理する事とした。倒木の処理はこの後10cmの物が一本だけだった。

川島橋で小休止し、午後1時過ぎに林道に降りた。予定時間を20分近くオーバーしている。今後は標準タイムの2〜3割プラスで計画する必要があるようだ。

林道から下も登山道に異常は無く、沢の廃屋前で休憩して浦向の国道を目指す。



12時前になり、行者堂で本日の安全山行を願い心経を唱えて、11時50分に行仙宿を出発。児嶋さんは青木君寄贈のエンジンブロワーを肩に登山道の落ち葉を吹き飛ばしながら先頭を歩いていく。昨年は途中で燃料切れになったので、今回は予備の燃料も持参していた。いつも、どうするかどうあるべきかを考えてくれて感謝

30分ほど下ってここまで順調な歩みだったが、先行の5〜6人のスピードが落ちて列が詰まってきた。どうしたのかと見ると、先頭の畑さんの足の運びが普通ではない。すぐに駆け寄って聞いてみ

ると「足に力が入らない」と言う。ゆつくりと行こう、リュックを持つ、と言ったが「大丈夫」と返答があった。

少し進んでから「リュックの中身をちよつと持つて」と申し出があり、重そうなものを移し替えた。

足に力が入らないということなので、左側の斜面に落ちないかと心配ですぐ後ろを付いて歩いた。ゆつくりと慎重に進んで十津川橋を渡って一安心する。

駐車地に戻って、山口さんと瀧本さんはここでお別れ、梶野車に沖崎、西、山川の3人が乗り登山口の車回収に向かった。35分程で戻って次回の予定などを話し解散した。

女性陣の中で一番若くて元気な畑林さんでも急に今回のようなことが起こるし、歩行時間も余分にかかるようになってきた。

今後の巡視山行は慎重に行う必要がある。  
(記：沖崎)

### 行動タイム

補給路登山口 09：35→10：40 行仙宿 11：50→12：06 モノレール終  
点→12：24 川島橋→13：05 林道→13：55 廃屋→15：14 駐車地